

元愛防第 103 号
令和元年 10 月 31 日

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第 3 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

令和元年度 病虫害発生予察注意報（第 3 号）

令和元年 10 月 31 日
愛 媛 県

病虫害名 ハダニ類

対象作物 イチゴ

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生程度 やや多～多
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 10 月中旬の定点調査における寄生葉率は 13.64%と平年（7.35%）に比べ約 1.9 倍高くなっている（図 1）。
- (2) 発生はナミハダニが主体となっている。
- (3) 気象予報では、気温は高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生に助長的である。

4 防除上の注意

- (1) ハダニ類は葉裏等の薬液のかかりにくい場所に寄生することが多いため、散布ムラに注意し、丁寧に散布する。
- (2) ナミハダニに対しては有効薬剤が少ないため（表 1）、低密度時からの防除が重要となることから、圃場観察により早期発見、早期防除に努める。
- (3) 薬剤の選択に当たっては、ミツバチや天敵となるカブリダニ類等への影響を考慮する（表 2）。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤（表 3）を含め、系統の異なる薬剤によるローテーション使用に努め、薬剤散布後は防除効果の確認を行う。

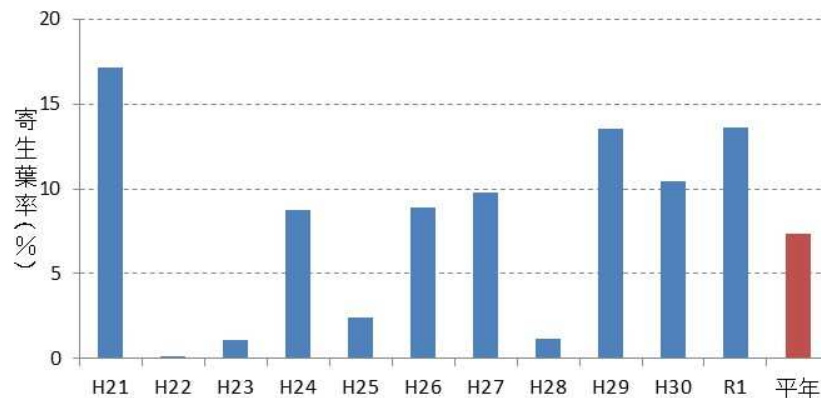


図1 イチゴ定点調査(10月)におけるハダニ類の寄生葉率

表1 イチゴに寄生するナミハダニの薬剤感受性検定結果(農林水産研究所)

薬剤名	殺成虫効果(補正死虫率%)							殺卵効果(補正死虫率%)		
	東温市 (R1)	宇和島市 (R1)	大洲市1 (R1)	大洲市2 (R1)	西条市1 (H30)	西条市2 (H30)	新居浜市 (H30)	東温市 (R1)	宇和島市 (R1)	西条市1 (H30)
マイトコーネフロアブル	100.0	100.0	100.0	100.0	90.2	100.0	94.3	1.8	2.6	7.5
ダニサラバフロアブル	3.9	0.0	10.5	0.4	0.0	5.9	11.6	21.6	26.0	4.1
スターマイフロアブル	0.0	5.0	21.5	20.3	0.0	71.8	74.6	54.1	70.6	38.7
カネマイフロアブル	60.6	93.4	75.6	89.2	12.5	0.0	94.1	70.3	73.6	51.6
コロマイ乳剤	0.2	83.3	78.5	93.7	0.0	58.8	84.2	2.7	16.0	52.7
アフーム乳剤	33.5	61.0	87.0	97.7	8.3	-	100.0	-	-	-
コテツフロアブル	-	-	-	-	-	-	-	97.1	92.1	98.2
バロックフロアブル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.2
ダブルフェースフロアブル	25.5	100.0	46.3	63.2	19.8	-	72.7	65.6	43.9	26.4
グレーシア乳剤	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注)表中の数値はハウス単位で採集したハダニの結果であり、各地域の感受性を反映しているものではない。

表2 イチゴのハダニ類に対する防除薬剤(定植期以降)

薬剤名	農薬分類 (IRAC)	希釈倍率	収穫前日数 /使用回数	ミツバチへの影響	天敵に対する影響			
					ミヤコカブリダニ		チリカブリダニ	
					卵	成虫	卵	成虫
マイトコーネフロアブル	20D	1,000倍	前日/2回	1日	◎(-)	◎(-)	◎(-)	◎(-)
ダニサラバフロアブル	25A	1,000倍	前日/2回	1日	◎(-)	◎(-)	◎(-)	◎(-)
スターマイフロアブル	25A	2,000倍	前日/2回	1日	◎(-)	◎(-)	◎(-)	◎(-)
カネマイフロアブル	20B	1,000倍	前日/1回	ほとんど影響なし	◎(0)	◎(0)	◎(0)	◎(0)
コロマイ乳剤	6	2,000倍	前日/2回	1日		△(1)		△(-)
アフーム乳剤	6	2,000倍	前日/2回	2日	×(-)	×(-)	×(-)	×(-)
コテツフロアブル	13	2,000倍	前日/2回	10日	-	△(7)	-	-
バロックフロアブル	10B	2,000倍	前日/1回	1日	×(-)	◎(-)	×(10)	◎(-)
ダブルフェースフロアブル	25A+21A	2,000倍	前日/1回	1日		△(14)		△(10)
グレーシア乳剤	30	2,000倍	前日/2回	1日	×(-)	×(-)	×(-)	×(-)

注)天敵に対する影響は、農薬メーカー技術資料等から引用。

・()内の数字は影響日数、(-)は影響日数が不明、◎は影響なし(死虫率<30%)、△は直接かかると影響あり(死虫率:50~70%)。

×は影響が大きい(死虫率75%<)を示す。

・表中の影響の程度及び期間は目安であり、散布時の気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化する。

表3 気門封鎖型農薬の使用法(定植期以降)

薬剤名	対象病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数	天敵類への影響
アカリタッチ乳剤	ハダニ類	1,000~3,000倍	収穫前日まで	-	・虫体に散布液が接触すると死亡率は高まる。
	うどんこ病	2,000倍			
エコビタ液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-	・ミヤコカブリダニよりもチリカブリダニの影響が大きい。
粘着くん液剤	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	100倍	収穫前日まで	-	・散布液の乾燥後(天敵放飼前の使用)では影響がほとんどない。
ムシラップ	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-	
サフオイル乳剤	ハダニ類	300~500倍	収穫前日まで	-	
	チャノホコリダニ、コナジラミ類	300倍			
フーモン	ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類、うどんこ病	1,000倍	収穫前日まで	-	
ピタイチ	ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類、うどんこ病	500倍	収穫前日まで	-	

使用上の注意

①散布液がハダニ類に直接かからないと効果がないため、ムラなく散布液が掛かるよう葉の表裏に丁寧に散布する。

②殺卵効果がなく(サフオイル乳剤を除く)、残効性がないため、高温時など増殖が旺盛な時期には、5~7日程度の間隔での連続2回散布や他剤とのローテーション散布を行う。

③夏期高温時など薬害が生じやすい条件では使用を避ける。

④薬害が発生する恐れがあるため、初めて使用する品種では試しがけを行う。

⑤展着剤の加用は必要ない。

⑥アカリタッチ乳剤は果実への薬害軽減のため使用倍数は2,000~3,000倍とする。なお、「あまおとめ」には使用しない(薬害)。